

光関連団体国際会議（IOA）参加報告

光関連団体の国際連携組織である IOA (International Optoelectronics Association) の 2015 年の年会が、台湾の PIDA (Photonics Industry and Technology Development Association) がホスト組織になり台北市の世界貿易センター内で、6 月 17 日に開催された。これに当協会から専務理事の小谷他 1 名が参加したので、以下に報告する。

IOA は 1996 年に当協会がホストとなり ICOIA (International Coalition of Optoelectronic Industry Associations) として始まり、7 年前から IOA と名称を変えて、年会は今年で通算 20 回を数える。メンバーは発足時には 4 団体であったが、現在は 9 団体である。

今回の IOA 年会は、PIDA の行事 (LED LIGHTING TAIWAN) に時期を合わせて開催された。参加国は、日本、台湾、米国、スイス及び欧州 (EPIC) であった。今回は、KAPID (韓国)、CPC (カナダ)、SOA (スコットランド／英国) および OpTec-Net (ドイツ) は不参加であった。なお OIDA (米国) は、スカイプを使った Web 参加であった。以下に順を追って紹介する。



IOA 会議参加メンバー

会議会場は世界貿易センター内の会議室で、全参加メンバーによる「各国／地域の光産業動向と昨年の活動」、「各国／地域の技術ロードマップと技術開発の動向」などの報告と討議が行われた。冒頭、当協会から年間活動の概要と光産業動向調査の結果の詳細を平成 26 年度報告書に基づいて報告した。また、超低消費電力型光エレクトロニクス実装システム技術開発に関する国家プロジェクトの概要と進捗について紹介した。さらに、光情報通信関連の技術ロードマップについても概説した。

スカイプを利用して Web 参加した OIDA（米国）からは、世界の光産業の動向について報告があり、昨年はディスプレイ・太陽電池および LED が先導していることが示された。また、米国の光産業については、ゆっくりではあるが着実に成長しており、太陽電池・LED および情報通信分野が牽引していることが明らかになった。なお、ファンディング関連に関する報告もあり、DOD（米国国防総省）と DOE（米国エネルギー省）が主導していることを示した。

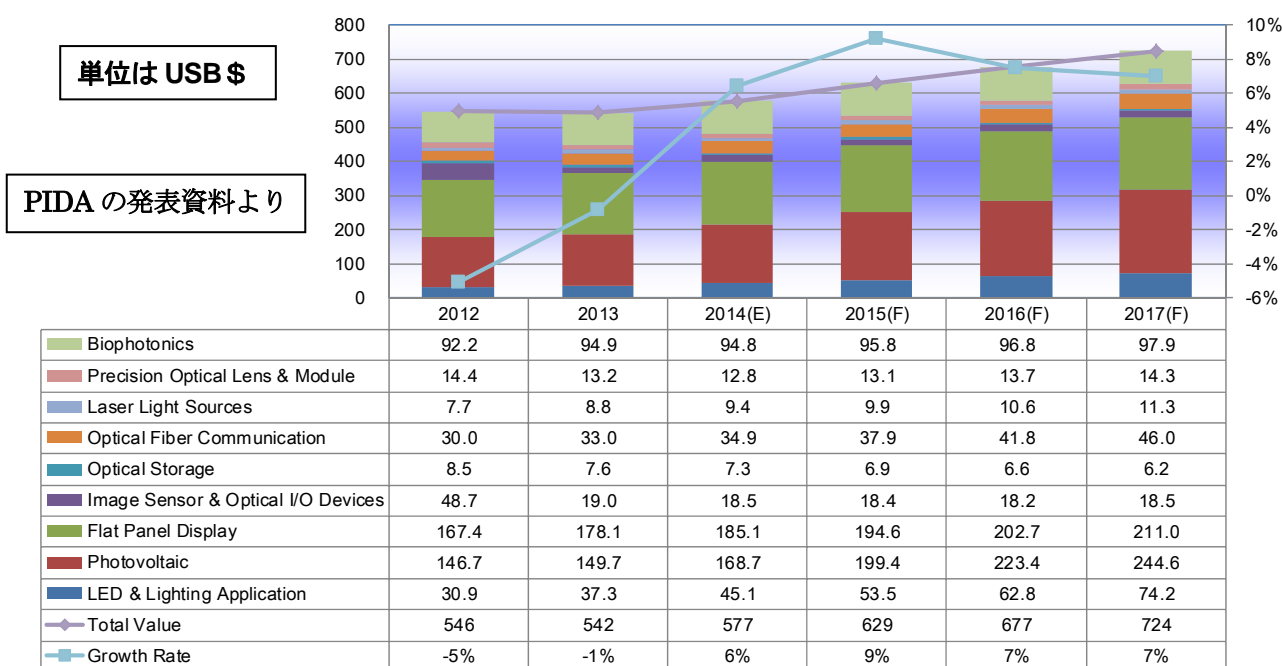
EPIC（欧州）からは、欧州におけるレーザ産業の動向について報告された。レーザシステムの市場は 270 億ドルであるが、レーザ部品市場は 98 億ドルと 3 分の 1 程度であった。なお、主要なレーザシステムはレーザ加工分野である。今後の大きな成長が見込まれる分野として、3D プリンタを挙げている（試作品製造などへの適用）。

PIDA（台湾）は、毎回世界と台湾の光産業の生産額を発表しており、今回は 2012 年～2013 年の実績、2014 年の見込み、2015 年～2017 年の予想を示した（世界動向については、下図参照）。台湾における光産業の成長率は、全体では、2012 年が－8%、2013 年が－6%、2014 年が－3%（金額：67B 米ドル）と引き続きマイナス成長となっている。しかし、2015 年は＋6%とプラス成長を見込んでいる。2014 年の製品分野別成長率で見ると、PV・LED&SSL（Solid State Lighting）・レーザ応用などの分野が 10%前後の成長を示していた。

SLN（スイス）ではレーザ加工分野が有名であり、2014 年は全光産業の売上の 30%を占めるまでになったが、売上額自体に大きな変動はない。太陽電池分野の市場急減に伴い、レーザ加工分野の相対比率が増大しているのである。

6 月 18 日には、Lighting up the Future Forum が会場内の会議室で開催され、IOA メンバーも参加した（当協会からも、日本の光産業の動向について報告した）。若手技術者・学生を中心に 40 名程度の参加者があり、積極的な議論が行われた。

来年の年会は、SLN と EPIC の共催で、4 月にスイス・ジュネーブで開催される予定である。



PIDA が発表した世界の光産業の動向